

# 第1学年 地域創造学学習指導案

日 時 令和元年11月29日(金)  
場 所 コンピュータ室  
学 級 第1学年 4名  
第2学年 19名  
授業者 教諭 黒坂 太一・佐々木 佳恵  
志田 竜彦・山内 薫

## 1 単元名 「プロジェクトに取り組んでみて」

## 2 単元について

### (1) 題材について

5ステージ中、第3ステージの小学校5,6年では、調べたことを小冊子やガイドブックにまとめた。第3ステージの最終段階として中学校1年時では調べたことをポスターにまとめ、ポスターセッションを通して提言・発信する。「自然に学ぶ・住田町を知る」をテーマに種山高原を散策し、種山高原地域の動植物・自然環境から個人テーマを設定して学習を進めてきた。学習のまとめとして2月の入学説明会のおり、来年度入学生に対してプレゼンテーションを行い、取り組んだ成果を発表する。プレゼンテーションはポスター形式として発表後は櫃割ギャラリーに掲示し、学習のポートフォリオとして蓄積していく。

### (2) 生徒について

小学校の第3ステージでの学習では、気仙川に生息する生物やたたら製鉄体験、住田町のよさを発見し、住田町のしおりを作成するなど、学習を積み重ねてきた。中学校1年では、種山高原の散策を通して、住田町に生息している植物について高く関心をもっている。例えば、身近に生息している有毒植物や有住中学校付近の山と種山高原に生息している植物の違いについてである。また、住田町の鳥獣被害と植物の関係についても関心をもっている生徒もいる。さらに、種山高原の散策では宮沢賢治についても学習したことから、種山高原と宮沢賢治作品の関連性について調べたいと思っている生徒もいる。

### (3) 指導にあたって

本単元では発表に向けてミニプレゼンテーションを行い、スチューデントアドバイザー(2年生によるアドバイス)からの質問事項や視覚情報の改善点を整理し、設定時間内で改善できる内容を選択させたい。ICTを使って具体的な情報、視覚的伝達方法を見つけ出し、「相手により伝わるにはどうしたらいいのか」を考えさせることで【D-感じ取る力】の資質能力の向上を図らせたい。

また、スチューデントアドバイザー(2年生によるアドバイス)については、昨年度に自分達が発表した経験を踏まえ、具体的な疑問や改善点を相手に分かりやすく伝える経験を通して【C-協働する力】の資質能力の向上を図らせたい。

発表者と聞き手とのやり取りをとおして、相手の良い点や改善点を見つけ出し、助言やアドバイスする能力や態度を育てていくことで、探求のプロセス(問題理解・現状把握、課題設定、情報収集、見通しを持つ、実施・改善、まとめ・振り返り)を身につけさせていきたい。

### 3 単元の目標と評価規準

#### (1) 単元の目標

	資質能力の分類	資質能力別の目標
社会的実践力	A 【地域理解】	○住田町で活躍している人・企業の願いを学んだり、地域資源について改めて考えたりしようとしている。
	B 【社会参画に関する資質能力】	○住田町で活躍している人や地域資源について（気仙地区に）発信する対象を決め、発信するためにインタビューしたり、パンフレットやポスターを作成しようとしている。
	C 【人間関係形成に関する資質能力】	○役割分担をした上でインタビューし、その内容をまとめようとしている。
	D 【自律的活動に関する資質能力】	○地域の人の願いや地域資源に関わる調査結果などをパンフレット、ポスターにまとめようとしている。

#### (2) 評価規準

☆汎用的スキル      ★態度・意欲・学びの価値

資質能力		評価規準	
B 社会参画に関する 資質能力	A ◎地域理解	【◎地】	・活動を通して改めて気づいた住田町で活躍している人・企業の願いや自分たちの住んでいる自然などの地域資源について、まとめようとしている。
	1 ☆見通す力	【☆見】	
	2 ☆多角的・多面的に考える力	【☆多】	
	3 ☆提案・発信する力	【☆提】	
	4 ★好奇心・探究心	【★好】	
C 人間関係形成に関する 資質能力	5 ★困難を解決しようとする心	【★解】	・住田町で活躍している人・企業の願いや自然などの地域資源の課題や現状を知るために、設定された観点をもとにインタビューしようとしている。さらに深く知りたい内容についても質問しようとしている。
	1 ☆伝え合う力	【☆伝】	
	2 ☆協働する力	【☆協】	・インタビューやパンフレット、ポスター作成において、他者と協力し、(グループで) 役割分担や意見交流をしながら、議論しあったりして取り組もうとしている。
D 自律的活動に関する 資質能力	3 ★他者受容	【★受】	
	1 ☆感じ取る力	【☆感】	・パンフレットやポスター作成において、他者からの意見やアドバイスを受け入れて、自分の考えや発想を捉え直し、よりよいものに改善しようとしている。
	2 ☆創出する力	【☆創】	・住田町で活躍する人・企業の願いや地域資源について示されたパンフレット、ポスターを作成しようとしている。
	3 ★自己肯定感	【★肯】	

#### 4 単元の指導・評価計画（本時 第14時／16時間）

月	小単元名	プロセス	時	主な学習活動	関連する教科・領域	評価項目（評価方法）
8・9	住田で活躍するOさんの願いや工夫・地域資源についてインタビューしよう。	課題設定・見通しを持つ 情報収集	2	・Oインタビューに向けた準備 ※種山高原での再調査に向けて、森の案内人さんへの質問事項をよりの確なものへと改善し、まとめる。	数学 B-1 4章 (比例と反比例)	・A ◎地域理解 (チェックリスト)
			4	・Oインタビューの実施 ※森の案内人さんと共に種山高原で再調査とインタビューを行う。	理科 B-4 4単元 (身近な地層を観察)	・B5 ★困難を解決しようとする心 ・C2 ☆協働する力 (振り返り)
10・11・12		実施・改善	10本時	・Oインタビューのまとめ、パンフレットやポスターの作成 ※調査内容報告会（来年度新入生へのプレゼンテーション）に向けて見通しを立てる。 ※プレゼンテーションのためのポスターを作成する。 ※ミニプレゼンテーションを行い、ポスターのブラッシュアップを行う。	国語 C-1 6単元 (グループディスカッション)	・C2 ☆協働する力 ・D1 ☆感じ取る力 ・D2 ☆創出する力 (ルーブリック)

#### 5 本時の指導

##### (1) 目標

アドバイスカードをもとに時間内にブラッシュアップできる内容を選択し、改善することができる。

【D1 自律的活動に関する資質能力 ☆感じ取る力】

##### (2) 評価について

○本時のルーブリック

パフォーマンス課題		・アドバイスカードをもとに時間内にブラッシュアップできる内容を選択し、改善する。
みとる資質能力		・D1 自律的活動に関する資質能力 ☆感じ取る力
パフォーマンスの特徴	A	・スチューデントアドバイザーからのアドバイスから具体的な改善を図り、相手に伝わりやすい表現にしようとしている。
	B	・スチューデントアドバイザーからのアドバイスから時間内に改善可能な内容を精選し、具体的な改善を図ろうとしている。
	C (支援の手立て)	・具体的にアドバイスや要望を生かせるように、いくつか一緒にやってみる。

(3) 展開

段階	学習内容・学習活動	※指導上の留意点 ◆評価
導入 5分	1. <共通> 前時の学習の想起 2. <共通> 授業の見通しをもつ。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">             学習課題 スチューデントアドバイザーからのアドバイスを生かしてブラッシュアップをしよう           </div>	<1年> ブラッシュアップに使える時間を確認する。 <2年> 内容(疑問点), 図(視覚情報)をメインにアドバイスするように確認する。
展開 40分	3. <共通> スチューデントアドバイザーの前でプレゼンテーションを行う。(2班) <1年> 発表した後はスチューデントアドバイザーからアドバイスカードをもらう。 4. <1年> アドバイスカードを分類し, 次の発表に生かせる項目を絞って調べる。 <2年> 2班ごとにアドバイスの仕方について話し合う。 5. <共通> ブラッシュアップしたものを生かして次の発表を行う。(2班)	<2年> 1年次に発表した内容が偏らないようにスチューデントアドバイザーを4班編成にすることでアドバイスの多様化を図る。 <2年> 相手に自分の意図をわかりやすくアドバイスカードに具体的にまとめさせる。 <1年> 10分間のブラッシュアップ時間で調べ終わる内容を実際に選択させる。 <1年> ICTを活用し, 調べた内容の視覚化(印刷)を図らせる。 <2年> アドバイスカード(控え)を持ち寄り, よりわかりやすい伝え方について話し合わせる。  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>◆評価</p> <p>スチューデントアドバイザーからのアドバイスから時間内に改善可能な内容を精選し, 具体的な改善を図ろうとしている。</p> </div>
まとめ 5分	6. <1年> 改善の振り返りを行う。 <2年> アドバイスの振り返りを行う。	<2年> 2回目のプレゼンテーションでわかりやすく変った部分を具体的に伝えるようにする。 <1年> 1回目と2回目の発表の違いを確認し, 改善点を具体的に確認させる。 <2年> アドバイスしたことで自分の発表に生かせる項目を具体的にまとめる。